

伝えよう・広げよう・キリストの心を

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.24

共に生きる

聖家族有志会報

かんなづき
神無月
10
2012

「私たちの求める平和とは」
イエスの心から流れる平和の水

中井 淳神父講話と
分かちあい



- ・10月27日(土曜)
午後2時~4時
- ・西南KCC 小倉北区
太田町14-31 駐車場有
- ・参加費／300円
- ・主 催／キリスト者・九条の会
どなたでも参加出来ます。
参加ご希望の方はご連絡を
高瀬 紀子 090-9583-2806
長谷川 基子 090-3600-2618

信徒協へのカンパ 有難うございます

9月 9日 - 14,760円

9月16日 - 15,510円

その他、個別の支援等戴きました。

今後も、様々な取組のお知らせ
とお誘いなど行い、信仰養成の
ために使わせて頂きます。

濱・瀬下

お知らせ

- ◆10月6~8日 正義と平和全国集会-長崎大会
長崎カトリックセンターと浦上教会 6日…13時~
- ◆10月9日(月) 社会福音部会(アドラック)…19時
- ◆10月11日(木) イチイチ祈りの会 修道院 …19時
- ◆10月12~14日 ACO日韓交流(下関労働教育センター)
- ◆10月14日(日) 英語ミサと交流(黒崎) …15時
北九州信徒協代表者会議(小倉) …14時
- ◆10月27日(土) キリスト者九条の会(西南KCC)
中井神父を招いて…13時30~16時30分
- ◆10月28日(日) 虹の会(分かち合い)黒崎 …ミサ後
- ◆10月28~29日 ACO黙想(下関労教センター)中井神父

さよなら原発！市民集会とデモに参加
(9月23日、福岡市冷泉公園)



カトリック教会の原発即時廃止への意思表示をするのぼり旗が出来、この旗の元に司祭と信徒9名が「さよなら原発福岡集会」に集まりました。前日行われた信徒協研修会(2P)で「それぞれにできること」を具体的な形で表したようです。集会後、市内をデモ行進。初めて参加された方は、やや遠慮がちでした。行進の終りには大声で「原発いらない」と訴えていました。

—「現代世界における教会の現存と活動について、教会自身がどのように考えているかを、すべての人間に説明したいと望む」
(現代世界憲章序文より) —

いまとぐ原発の廃止を!
カトリック教会

生きている
のだから
ありますよ。
あれが生きている
とうことです。
青う窓

援助修道会 修道院より

10月11日:イチイチ祈りの会

場所は修道院聖堂、午後7時から。
どなたでもお出でください。

それぞれができることを実行してほしい



司教団メッセージの意義を学ぶ

【宮原司教の挨拶】今回の研修会のテーマは、来月から始まる「信仰年」の導入として時宜に叶った素晴らしい選択だと思います。この研修を通して信仰年の取組に向かう私たちの姿勢と動機付けがより明確なものになり、キリスト者であることの信仰の喜びを再確認して新たな情熱と使命感に燃えながら信仰年に突入できるように、実り多い研修会となることを念願しています。

宮原良治司教

宮原司教は司教団メッセージ「いまとく原発の廃止を」について3つの観点を話しました。

1点目は、メッセージが出された背景について。1984年に出した「日本の基本方針と優先課題」が、社会と教会の遊離の現実を見て、社会に開かれ社会と共に歩む教会を目指し歩んできたことと、これまでの原子力エネルギー理解に関して司教団の反省があったこと。

2点目は原発事故から見えてきた課題について。この中で、これまで事故は絶対起こらないと洗脳されていたことや原子力発電そのものが危険な存在であること。

3点目はメッセージの内容について。「いまとく廃止を呼びかけることに意味がある」として自然環境保護や、倫理上の立場からそれを強調し、私たちの生活スタイル転換も必要なこと。

以上の3点をたいへん分かりやすく説明された



ので、分かち合いが活発に行われました。

午後は、DVD「福島からあなたへ」の観賞と2人の体験発表が行われ、それを基にした深い分かち合いがすすめられました。全体会では「もっと多くの

司祭に参加して欲しかった」「今日のことを小教区に伝えたい」と感想が寄せられました。また「どのような具体的行動を望まれていますか? メッセージを一般社会に向けたものに」との質問も出されました。この質問に司教は「全国広いので、具体的(な指針)は難しい。メッセージは方向性、姿勢を示しています。また社会に向けたものもあります。それに出来ることを実行してほしい。」と応えました。研修会後に提出された感想文は、これまでにないほど集まり、実りある研修となつたようです。(後日記録集として配布されます。)

聖書朗読のテープがCDになりました

十月で四福音書のCDが全て出来上がります。

四福音書は各々、立場の異なった福音史家によって書かれたのですが、イエス様の歩まれた日々そして語られた福音は、長い歴史を通して現代に生きる私達への神様の語りかけでもあります。それをお伝えする事の喜びと緊張の中、一生懸命に読まれた朗読者一人お一人の思いが伝わって来る様なCDになっています。

病床にあって御言葉に触れたいと思っておられる方のお見舞いにもこのCDをお役立て下さい。(竹井)

難民移住移動者委員会全国研修会がカトリック大分教会で開かれます



この研修会では、異なる文化、生活習慣の中で信仰を中心にしてみたいと願っている人のお話を、改定入管法についての施行後の事例報告、ペトロ岐部かすい神父のふるさと訪問やフィリピン人たちが働く造船所見学などをします。10月16日~18日ですが、一日だけでも参加しませんか。

問い合わせ／有吉

親睦レク 4年連続中止

それでも充実した一日でした

今年は台風の影響で4年連続中止となりました。この連続中止記録は、来年も続くでしょうか?とはいえ、それはそれで、別の楽しみ方も心得ています。

まず、宗像の「黙想の家の場所」が分からぬ方のために道案内。そして敷地内に建造中の「ザビエル聖堂」を見るだけでなく、全員ヘルメットをかぶり中を見学。急な訪問にもかかわらず、土田師は丁寧な説明をして下さいました。次に向ったのは、マヘル神父のいる古賀カトリック教会。ジュード神父とウィリアムス神父から古賀教会の歴史の説明を受けました。またパイプオルガン演奏まで聞くことができ、おまけにスリランカの紅茶を御馳走になりました。温かく迎えてくれた神父の姿に一同大喜び。次に向ったのは「宗像道の駅」。

広々とした駐車場はとっても気持ち良かったです。買い占めないようにと声をかけ、短時間の買物の後、教会へ。ここで最大の楽しみバーベキュー交流です。手慣れたものでアツという間に焼肉の出来上がり。ビールも場をぎわせ「運動会よりも今日のようにいろんなところに行けるのがいいね」と、台風で中止になったことに感謝の声もありました。来年もきっとよい風が吹くでしょう。そして親睦を深めましょう。(T)



分かち合のひととき

虹の会

与えられた生命の中で神様の道具として
どれだけ役に立つことが出来るかが大事である

福音書をケセン語(岩手県気仙沼地方の言葉)に翻訳された山浦玄嗣さん(岩手県の医師)講演DVDをもとに分かち合いました。

ウイットに富んだ語り方で被災体験を話される山浦さんに温かさと優しさを感じました。

キリスト者・九条の会

笑いの中で楽しい交流



「平和を楽しく語る集い」が9月15日(土)西南KCCで開かれました。これまで講演形式で、司教・神父・牧師などひとりずつ招いていましたが、今回は身近な方々にパネリストとなっていました。日本キリスト教団の福島牧師、上津役九条の木村さん、戦争体験者の石井方子さん、火野葦平の孫、玉井史太郎さん、小学校教諭の岩下先生の5人です。それぞれが持ち味を発揮し、たいへん貴重なときを過ごすことができました。冒頭“二世議員は、にせ(偽)議員”的ジョークが会場を和ませました。「竹島」「尖閣列島」問題でいま日本社会は揺れていますが“テーマパークにすればいい”と国境を持たない宗教者の言葉に思わず大笑いするひとこまも。

石井方子さん(82才)の言葉…朝鮮戦争が始まったとき、もういやだと思った。その時、あるパンフに「沈黙は共犯なり」とあり、その言葉に突き動かされ、今でもそれを大切に思っています。

「キリスト者・九条」ならではのユニークな方法で集いを企画しましたが、おおむね参加者の感想は好評でした。この集いの様子は、11月上旬に発行される会報19号に掲載されますのでお読み下さい。なお、19号の巻頭言はカトリック小倉教会の山元神父が寄稿される予定とのことです。

9月23日 19名参加

南京大虐殺の真相とは

③

秋吉久紀夫

これら陸軍部隊の他に第三、第四艦隊で編成された海軍部隊も参加していた。かれら艦隊は揚子江を通り南京に向かつて出撃したが、まず先頭を切ったのは海軍部隊であつた。一九三七年八月十五日、九州の長崎県大村飛行場より東シナ海を超えて、約九六〇キロの南京上空まで四時間を、それぞれ六〇キロの爆弾を一二発抱えて、攻撃を敢行した九六式陸上攻撃機二〇機の作戦である。かれらは南京陥落まで、百回以上もの渡洋爆撃を繰り返し敢行した部隊であつた。

そしてやがてその年の一一月、日本陸軍の本格的な南京攻略戦が開始された。次の資料は『東京日日新聞』掲載の一九三七年一二月一二日と一三日の日本軍の南京攻略戦の記事である。

「上海軍発表（十一日午後八時）光華門並にその東方城壁突角及び中華門並にその西方城壁突角を突破占領せる我軍は、十一日昼頃南京城南城壁全部を占拠して城壁高く日章旗を翻し、その城内進入部隊は頑強な敵の抵抗並に執拗なる敵の逆襲を排除しつつ激烈なる市街戦を交へ逐次敵を北方に圧迫しつつあり。」

「大本営陸軍部発表（十二日午後九時半）南方地区より南京城を攻略中の我軍は十二日正午南京城門中最も堅固な

る中華門を攻略し引続き南側城壁全部を占領せり。」

「上海軍発表（十三日午後十時）我が南京城攻撃軍は本十三日夕刻南京城を完全に占領せり、江南の空澄み日章旗城頭高く映じ皇軍の偉容紫金山を圧せり。」

さらに『東京日日新聞』の一二月三〇日の記事には、南京攻略総決算として、次のような記事が掲載されていた。

「上海軍発表（十二月三十日午後六時）南京本防御線より南京城完全攻略に至る間敵に与えたる打撃は既にその一部を発表せるも、その後詳細なる調査によれば、遺棄死体のみをもつてするも八万四千の多きに達し、この間わが軍の被れる損害は戦死者合計約四千八百名なり、彼我の損害の概要は右の如し。

一、わが方戦死八百、戦傷四千。
二、敵方遺棄死体八万四千、
捕虜一万五百。

三、鹵獲品の主なるもの

小銃十二万九百、重軽機関銃三千二百、迫撃砲曲射砲二百九十九、野山砲四十、高射砲四十、重砲百十、拳銃百二十、戦車十、自動貨車四十、汽船三、客貨車六十、砲弾各種合計約四百七十万発。」

五、元日本軍兵士の証言から

これら公的機関の残した資料の他に、南京大虐殺に直接関与した元日本軍兵士の証言を纏めた松岡環編著『南京戦』中の記事を上げてみよう。

町田義成氏（第十六師団歩兵第三連隊第三大隊）

「（十一月）十三日の南京城内の掃討で、かなりの普通の服装をした中国人が殺されましたよ。自分が中隊長をやつていて二百何十人を指揮しておるという立場なら、横のつながりもあるから、何百人の中国人をここで殺したと判るんやろうけれど自分の分隊だけを掌握しているものだから、全体的なことは判らなかつたです。當時知らうとしなかつたし、報せてくれることももちろんなかつたですからな。しかし、自分や他の、分隊がやつたひとかから総合してゆくと、かなりの中国人を殺したとゆうことやろう。」

徳田一太郎氏（第十六師団歩兵第三連隊第二大隊）

「（十一月十三日南京陥落後の翌日、朝八時頃に南京の太平門に入りました。）太平門近くに大勢の捕虜がうろうろしていましたんや。そこで、年寄にして三、四百人ぐらい捕まえてきたんですわ。太平門の外から言うと、門の右の一角に工兵が杭を打つて、それから鉄条網を張つていて、そこへこれに男も女も子どももいっしょくたる支那人を入れて囲つてしまいました。その下には地雷が埋めてありました。その紙に「地雷」と書いてありました。そこへ捕まえて来た人を集めてきて地

雷を引いてドンと爆発させましたや。死体が積み重なつて山のようになつていました。鉄砲でなかなか間に合はないので、地雷を敷いたそうです。そこへわしらが城壁の上からガソリンを撒いて火を点けて燃やしましたのでなかなか燃えなかつたね。上の人はだいたい死んだけど、下はまだ生きている人がたくさんいたんや。翌日朝、分隊長が初年兵に「とどめを刺せ」と命令しまして、死体を調べてまだ活きている人間を刺し殺しましたんや。」

小田利吉氏（第十六師団歩兵第三連隊第三大隊）

「（紫金山を一晩ぐらいして、十三日の払暁、北から下りて。私自身は南京城内で駐屯しとらんが。城外の防衛やつた。下関という記憶はある。その日のうちに下関へ警備みたいな状態でいった。その時起きたのが、やかましゅう言われる南京大虐殺といふやつた。下関という記憶はある。その京城内での駐屯しとらんが。城外の防衛やつた。太平門近くに大勢の捕虜がうろうろしていましてんや。そこで、年寄にして三、四百人ぐらい捕まえてきたんですわ。太平門の外から言うと、門の右の一角に工兵が杭を打つて、それから鉄条網を張つていて、そこへこれに男も女も子どももいっしょくたる支那人を入れて囲つてしまいました。その下には地雷が埋めてありました。その紙に「地雷」と書いてありました。そこへ捕まえて来た人を集めてきて地

雷を引いてドンと爆発させましたや。死体が積み重なつて山のようになつていました。鉄砲でなかなか間に合つて、それををしているのを見たら殺せるけれども、なんでもない者は殺せんわ。それでも、なんていうのか。部隊命令で、「おかしな者は皆殺せ」という、上からの指示はたしかにあつた。ところが、殺すにも、向こうがそんなことつやな。あれは、十六師団、中島師団関係しておるというかたちになつておるな。これは大事な問題や。その当つやな。あれは、十六師団、中島師団でいつた。その時起きたのが、やかましゅう言われる南京大虐殺といふやつた。下関という記憶はある。その京城内での駐屯しとらんが。城外の防衛やつた。太平門近くに大勢の捕虜がうろうろしていましてんや。そこで、年寄にして三、四百人ぐらい捕まえてきたんですわ。太平門の外から言うと、門の右の一角に工兵が杭を打つて、それから鉄条網を張つていて、そこへこれに男も女も子どももいっしょくたる支那人を入れて囲つてしまいました。その下には地雷が埋めてありました。その紙に「地雷」と書いてありました。そこへ捕まえて来た人を集めてきて地

「受洗、あめでとう」(A)

9月9日の英語ミサで、2人の女の子が受洗しました。

アンナ上田あかりちゃん(6歳)、アンジェラ塚本レノンちゃん(2歳)です。

その日は60人以上のかたが参加されました。また、ミサ後お祝いのパーティーでは美味しいフィリピン料理が振舞われ盛況のうちに終わることが出来ました。



塚本レノンちゃん



上田あかりちゃん

紹介します(TK)

売れてます Sr 渡辺和子の本



黒崎井筒屋書籍売り場での、この本の販売数は、今年九月までの数か月間、1~2位を占めています。この本は、シスター渡辺和子氏によるもので、その所属する修道会での、修道生活で培われた数々のエピソードが語られています。それに、多くの方々が感動し、さらに、それを‘心の糧’として求めていることが、この本の出版数からも伺い知ることができます。

この事実から、私たちの教会は、多くの方々が求めている、この‘心の糧’に応える必要があります。そこで、教会の信徒・修道者・司祭の皆様は、この‘心の糧’に応えるための方策を、真摯に考えるが時が来ていると思っています。

前号の続き

ハート(♡)の愛が咲きました(ぼーさん)



ホヤケリーの花

◀ 全ての葉がハート型

読者投稿

マヘル神父さま、ありがとう (U)

～あなたが大切です～

イエス

あなたのともだち

住所：あなたのすぐそば
TEL：心を開いて話せば通じます
年中無休

こんな素敵なお名刺を戴いたのは初めてです。ついうれしくなって、友達にも見せてしました。福音宣教って「勉強して、覚えて、…」なんて難しく考えていましたけど、喜びを相手に伝えることから始まるんですね。マヘル神父様にはずっと私たちと一緒にいてほしいなと思いました。

見てください、このデザイン (KM)

9月のはじめ、大阪へ行く機会があり、そこで、大阪梅田教会を訪れ聖体訪問をしました。ところが、その聖堂と祭壇のデザインの新鮮さに敬服しましたのでお知らせします。さらに、その教会には、サンパウロの店が同居し、書籍や聖具など販売しています。もし、大阪に行く機会がありましたら聖体訪問をどうぞ。



自然がいっぱい 九州の清水寺 (R)

「瀬高町にも清水寺があるよ」と聞いて9月2日に行きました。みやま柳川インターから車で15分ほど走ると本吉山清水寺本堂に着きました。山の中に建てられているため自然に囲まれとっても落ちています。ここは郷土玩具「雉子(きじ)車」で有名なところでもあります。山頂の売店には人間慣れした野うさぎが2兎出迎えてくれました。少し下ると雪舟が造ったと伝えられる清水寺本坊庭園もあります。紅葉の季節はおすすめです。



ハンセン病問題から見えるもの

「差別の垣根を取り除くために」(5)

お話／阿部智子さん(菊池恵楓園入所者)の要約です。

(前号の続き)たくさんの労働をさせられたことと、戦後になつても療養所の所長たちは「ライの患者は古畠を叩けば叩く程たくさん出てくる。叩きようが悪いので患者が出てこない」このような証言を力説し隔離を進めてきたのです。ここ恵楓園では200床作つたのでうめ尽くさなければいけないと考えたのでしょう。こうやって皆さんにお話しましたけど、どういうふうにしたら、正しく本当のことが伝わるのかなと思っています。

〔質問〕現在ご親族との交流は?」ありません。55年経つても。他人とは関わつてもですね、「私」は遠く離れてしまつたと。

〔質問〕どのような症状ですか?」人それぞれです。感覺麻痺で痛みなど自覚症状がない人もいます。私もです。この症状が起りやすいところは、足先、手足などで目で見える形になると相当時間がたつています。現在は、薬の開発によつて後遺症もなく治つてしまっています。ただハンセン病そのものに効く薬はなかなか研究されにくいのです。菌が酸素に触ると死んでしまう弱い菌です。今でもなかなかできない。結核菌は強い菌ですから、結核を患つたハンセン病患者に結核の薬を投与したら、ハンセン病にも効いてきた。例えば誰もがヘルペス菌を持っているけれども、体調を崩した人みんながヘルペスに罹るわけではありませんね。

〔質問〕子どもを産むことができないのは法律ですか?」そうです。昭和23年にできた産児制限です。これは女性議員さんが奔走してできたそうですが、目的は貧しさから女性を助けるためです。「ライ」の場合、特に光田先生が療養所内で子どもをもつ

ことを認めず、手術をしました。もちろんそれから逃れた人もいるようです。ハンセン病患者だけではなく、患者につながつてゐる縁者、身内も処置をするようにと言つていきました。猛烈な伝染力があると言つておきながら家族の中でひとりだけしか罹患しないケースも多いです。そろそろ時間ですから、一つだけ私からお願ひがあります。「菊池事件」と呼ばれるものがあります。昭和36年に死刑宣告を受け処刑された冤罪ともいるべき事件です。資料を差し上げますので読んでほしいと思います。少し複雑ですが。

〔菊池事件〕概要——昭和26年熊本県北部のある山村でAさん宅へダイナマイトが投げ込まれました。当時無らい県運動がおこり、恵楓園施設は増強され、ハンセン病患者の強制収容所のようになつていました。Fさんは恵楓園入所勧告を受けましたが病気ではないとの診断でした。それでも入所を余儀無くされたFさんが「Fは病気である」とAが熊本県に報告したこと恨んでいた」と警察は認定し、犯人とされてしまいました。その控訴中

にFさんは脱走したときAさんが殺されているのを発見され、これもFさんの犯行とされました。脱走中のFさんは逮捕され、恵楓園内の特別法廷で今度は死刑判決を受けました。再審請求も棄却のすぐ後日死刑が執行されてしましました。——概略はこうでもその背景に事件への疑問と

ハンセン病患者に対する偏見と差別が警察官にも裁判官にもあつたのではないかと思われるこれが見えかくれしています。(次

編 集 後 記

“いますぐ原発の廃止を”このメッセージを元にした研修会は、確かに一石を投じたようです。知りたい、学びたい気持ちが一人ひとりに溢れており、具体的に何かをしなくては…との渴きに動かされ、初めて平和デモに参加した司祭と信徒たち。「在特会」の側を通る時、旗を見て猛然と罵声を投げかけてきました。「あっ、カトリック教会と書いてある。政教分離だらうが。」デモの中に教会の旗を見て彼らのほうが驚いたのかも。終了時デモ初体験の方が「この旗が2~3本あったらいいね」と笑顔で明るく答えたのが印象的でした。(瀬下)